様式Ｃ-19

# 科学研究費補助金研究成果報告書

平成　22 年　5 月　24 日現在

研究種目：　若手研究（Ｂ）
研究期間：　2007～2009
課題番号：　19760447
研究課題名（和文）　公家町の維持・管理体制に関する研究

研究課題名（英文）　A Study of the Maintenance Management System of the Noble Village

研究代表者
登谷　伸宏（TOYA　NOBUHIRO）
京都大学・大学院工学研究科・研修員
研究者番号：　40447909

研究成果の概要（和文）：
本研究は、近世公家町の維持・管理体制の実態、およびそれを担う社会集団の役割を解明することを目的とし、主に近世前期を中心として検討を行った。その結果、以下の諸点が明らかとなった。

① 戦国期から近世における公家町の形成過程
② 内裏をとりまく六箇所の惣門の建設過程と、それを境界装置とする「惣門之内」という空間概念の成立
③ 惣門之内における治安維持の実態
④ 朝廷内において、内裏各殿舎の修理や朝儀会場の設営などを担った修理職奉行の成立過程

研究成果の概要（英文）：
On this study, I intended to reveal the maintenance management system of the noble village in early modern period, and the social groups that took the main role in the system. I mainly considered it focusing the previous early modern period, and demonstrated the following points.

1. The formation of the noble village from the period of provincial wars to the previous early modern period.
2. The foundation of six gates surrounding the imperial palace and "*Somon-no-uchi*" the space ideal which set the gates as boundary equipment.
3. The aspects of the security maintenance in "*Somon-no-uchi*".
4. The formation of "Shurishiki-bugyo" which took the main role in the maintenance of the buildings in the imperial palace, and the site management of the imperial ceremonies.

交付決定額

（金額単位：円）

| | 直接経費 | 間接経費 | 合　計 |
|---|---|---|---|
| 2007 年度 | 1,200,000 | 0 | 1,200,000 |
| 2008 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 2009 年度 | 1,000,000 | 300,000 | 1,300,000 |
| 年度 | | | |
| 年度 | | | |
| 総　計 | 3,200,000 | 600,000 | 3,800,000 |

研究分野：工学
科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠
キーワード：公家町、維持・管理システム、都市社会、京都、近世

## １．研究開始当初の背景

1980 年代以降、近世都市史研究は飛躍的に進展した。これらの研究は江戸・大坂を中心に進められ、両都市の空間構造、社会構造の特質が多面的かつ重層的なかたちで示されるようになった。

そのなかで吉田伸之氏は近世城下町における分節構造論を提唱し、城下町は城郭、武家地、足軽町、町人地、寺社地といった基本要素から構成されるとともに、その最終的な発展段階である巨大城下町においては、大店、藩邸などを磁極とする部分社会が形成されたことを指摘している。現在の近世都市史研究はこうした吉田氏の分節構造論、部分社会論を前提に研究が進められている。

一方、江戸・大坂とともに三都のひとつとして数えられた京都については、他の二都と比べ町人地以外の研究が非常に立ち後れている。これまで近世京都に関する都市史研究は、町方社会、特に町・町組といった地縁的共同体の成立と変容、または町屋やその集合体としての都市景観の特質に関する研究が中心となり、公家、寺社、武家といった諸社会集団の都市における存在形態、相互の社会的関係についてはほとんど明らかにされてこなかった。そのため、町方社会の社会構造については解明が進んだものの、都市全体としてはその分節構造が確認されるにとどまり、各社会構造の実態、部分社会の形成については不明な点が多く残されている。

とりわけ、近世京都は天皇・公家社会の存在に都市としての独自性が認められているのにもかかわらず、公家社会の都市における存在形態、諸社会集団との関係が分析の対象となることはほとんどなかった。さらに、公家の集住地区である公家町については、近世初期の空間構成が明らかにされているが、詳細な形成過程、集住の実態については検討されておらず、全体としては分節構造の確認の域を出ないとすることができる。近世都市京都の特質をより具体的に明らかにする上で、公家社会を組み込んだ議論は不可欠であり、公家社会を中心とした都市空間構造や社会構造、町方社会との社会的関係などについて詳細に検討する必要があった。

こうした研究段階を受け、申請者は公家社会を中心とした近世京都の都市空間構造、社会構造に関する研究を進めてきた。これまでは 17 世紀後半から 18 世紀初頭における公家の集住形態、宝永５年（1708）の大火後に行われた公家町再編の実態、町人地における公家の居住形態などについて検討し、博士論文としてまとめた。これら一連の研究により、都市における公家社会の集住形態・居住形態、町方社会との社会関係の一端は明らかになったと考える。だが、その一方で、公家の集住地区である公家町が全体として如何に維持・管理されたのかといった点にまでは十分に考察が及んでおらず、公家社会が形成した空間構造、社会構造の実態については、なお検討すべき課題は多く残されていた。

## ２．研究の目的

そこで、本研究では、公家社会を中心とする近世京都の空間構造・社会構造の解明というこれまでの研究の視角を保持しながらも、本研究費の交付期間は公家町の維持・管理体制と運用の実態に焦点を当てて研究を進めた。なお、ここでいう維持・管理体制については、研究の進展に合わせて改めて定義する必要があるが、本研究を進めていく上では、廃棄物の処理、明屋敷地の管理、公家町内の用水路の管理、火災に対する日常的な備え、内裏周辺に所在する六門の門番など、天皇・公家が日常生活を営む上で必要な施設の維持・管理に関する体制を指すものとした。

研究を始める段階において、公家町の維持・管理体制に関する先行研究としては、（１）内裏の消防体制、（２）儀式における「築地之内」の管理、（３）公家町の用水路に注目した研究が挙げられた。

これらの研究は公家町の維持・管理体制の一端を明らかにしているという点では貴重な成果だが、公家町の維持・管理体制の解明を研究の目的としていないため、不明な点がいくつか残る。

さらに、維持・管理に関するその他の問題、たとえば公家町から出される廃棄物や、公家町の治安維持に関する問題などについてほとんど検討されておらず、公家町の維持・管理体制については検討すべき課題が多く残されていた。

ところで、公家町の維持・管理体制について検討する際に参照すべき研究として、江戸の武家地に関する研究がある。先述したように、江戸についての都市史研究は蓄積が厚く、さまざまな論点がすでに提出されており、これまでに武家地における治安維持のための辻番制度の運用形態、廃棄物処理の実態、上水道・橋といったインフラストラクチャーの

管理体制などが明らかにされている。そこで、本研究では、これらの他都市に関する研究成果に学びつつ研究を進めた。

こうした点をふまえ、本研究では具体的に以下の点について明らかにすることを目的として設定した。

① 公家町の維持・管理体制の成立と変遷
② 維持・管理体制の内容とその特質
③ 維持・管理体制を担う社会集団

これらの点について検討することにより、公家町がどのように維持・管理されていたのかが明らかとなるとともに、それを担っていた社会集団について考察を加えることで、公家社会を中心とした社会構造の一端が解明できると考えられたからである。

なお、本研究では主に近世を対象とするが、その特質をより明確とするため中世後期から戦国期にかけての動向にも注意した。

## ３．研究の方法

本研究では、公家町に関する文献史料、絵画史料から公家町の維持・管理体制に関わる事例を収集することを基礎的な作業と位置づけた。つぎに、収集した事例を時代、内容、担当した社会集団により整理し、そこから維持・管理体制の特質を抽出していった。これらの作業を繰り返すことにより研究を進めるとともに、定期的に論旨の確認を行った。

その一方で、公家町の事例だけではなく、京都の町方社会や他の都市の事例も幅広く収集することにより研究支援データベースを構築し、研究の効率化を図った。

また、研究を進めるにあたっては、以下にあげるような工夫を具体的に行った。

（１）　これまで、建築史学で重視されてきた指図や絵画史料とともに、各地の史料所蔵機関に所蔵された公家の日記や、大名家の史料、町方社会の記録など文献史料を用いることで、より精緻な研究を目指すとともに、これらの史料から多様な側面から公家町の維持・管理体制について検討した。また、各地の史料所蔵機関には、これまでの研究で用いられなかった史料が所蔵されていることが多く、そうした史料の発掘も合わせて行った。

（２）　江戸や地方城下町における武家地に関する先行研究を幅広く参照した上で、公家町の維持・管理体制について考察するとともに、それらとの比較を通して、公家町の独自性についても検討を加えた。さらに、近年著しい発展をみせている近世朝幕関係史や、朝廷儀式に関する研究、朝廷の下部構造を構成する地下官人の組織や機能に関する研究を積極的に参照することにより、公家町の維持・管理についてさまざまな論点から考察を加えた。

## ４．研究成果

本研究は、公家町における維持・管理システムの具体的な姿を明らかにするとともに、それを担う諸社会集団の役割を解明することを目的としたものであった。研究期間中の研究業績として以下のものがある。

### （１）近世における公家町の形成過程について

本研究では、公家町の維持・管理システムを検討する前提として、近世における公家町の成立過程とその空間的特質について考察を加えた。その過程で、第 13 回中世都市史・流通史懇話会において研究の概要を発表するとともに、現在、研究成果を論文のかたちにまとめ、『建築史学』に投稿中である。

登谷伸宏「近世における公家町の形成について」

さらに、続編として、公家町の治安維持と深く関わる、内裏周辺に設けられた諸門の成立過程と機能を明らかとしたつぎの論文をすでに用意し、上記の論文の掲載が決定し次第、『建築史学』へ投稿する予定である。

登谷伸宏「近世における公家町の空間的特質について」

### （２）近世における修理職機構について

近世において、内裏各殿舎の修繕、儀式式場の準備などは修理職機構が担っており、公家町の維持・管理システムにおいて重要な役割を担っていた。本研究では、こうした修理職機構のうち、修理職機構の頂点にあった修理職奉行の成立過程を明らかにした。その成果として、つぎの論文を日本建築学会大会の『学術講演梗概集』に投稿し、今年度の日本建築学会大会において発表する予定である。

登谷伸宏「近世における修理職奉行の成立について」日本建築学会大会『学術講演梗概集』2010 年度大会（北陸）

### （３）近世公家町の維持・管理体制について

本研究では、公家町の維持管理システムの実態を明らかにするため、特に公家町内の維持・管理の実態に注目し、公家町の境界を限る六門の成立過程、六門の役割と門の管理主体などについて検討を加えた。その成果は、（１）に挙げた論文のなかでまとめている。さらに、公家町の維持・管理システムについて検討する過程で、近世京都の屎尿処理の問題を取り上げたが、その成果の一部を 2009 年度の日本建築学会大会の研究懇話会で発表するとともに、以下の論文として投稿した。

登谷伸宏「近世における都市周辺集落の空間と社会－竹田村を事例として－」『地域間交流と都市・建築』2009 年度日本建築学会大会（東北）建築歴史・意匠部門＋都市建築史特別研究部門研究懇談会資料

以上の研究を行うことにより、①戦国期から近世初期における公家町の形成過程と空間的特質、②惣門を中心とした公家町の慰安維持の実態、③内裏を含めた公家町の維持・管理に大きな役割を果たした修理職機構のうち、その頂点に位置する修理職奉行の成立過程が明らかとなった。これまで、近世京都に関する都市史研究は、町や町屋など町方社会に注目した研究がほとんどであったが、本研究により、公家社会からみた近世京都の都市空間・社会の特質が解明できたと考える。

今後は、本研究でとりあげられなかった、公家町の清掃、ゴミ処理、上下水道の管理、修理職機構の機能などの点についてさらに検討を加えることにより、公家町の維持・管理システムをより詳細に明らかにしていくつもりである。さらに、こうしたシステムが近世都市のそれと比較して如何なる位置づけにあるのかを検討するとともに、日本の近世都市における維持・管理システムの特質を解明していく必要があろう。

## ５．主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計２件）

① 登谷伸宏「近世における修理職奉行の成立について」日本建築学会大会『学術講演梗概集』2010 年度大会（北陸）（掲載決定、査読なし、印刷中）

② 登谷伸宏「近世における都市周辺集落の空間と社会－竹田村を事例として－」『地域間交流と都市・建築』2009 年度日本建築学会大会（東北）建築歴史・意匠部門＋都市建築史特別研究部門研究懇談会資料、査読なし、pp.15-20、2009 年

〔学会発表〕（計２件）

① 登谷伸宏「近世における都市周辺集落の空間と社会－竹田村を事例として－」『地域間交流と都市・建築』2009 年度日本建築学会大会（東北）建築歴史・意匠部門＋都市建築史特別研究部門研究懇談会　2009 年 8 月 28 日　東北学院大学

② 登谷伸宏「近世における公家町に形成とその特質について」　第 13 回中世都市史・流通史懇話会　2008 年 8 月 27 日　高知県立図書館

## ６．研究組織

(1)研究代表者

登谷　伸宏（TOYA NOBUHIRO）
京都大学・大学院工学研究科・研修員
研究者番号：　40447909